

## 事業事前評価表(無償資金協力)

1. 対象事業名:カンボディア王国 国道7号線コンボンチャム区間改修計画

### 2. 我が国が援助することの必要性・妥当性

- (1) 我が国は、アジア・太平洋地域の平和と安定及び発展にとりカンボディアの安定は不可欠であり、カンボディアが和平合意後の荒廃した国土の復旧・復興及び民主化を達成していくため、新政府が安定した政権を維持する必要があるとの認識の下、同国の復興及び民主化に向けた努力を積極的に支援することし、DAC 新開発戦略の重点国として、我が国の ODA 大綱を踏まえつつ協力を行っている。
- (2) カンボディア国は内戦終了後、復興に向けて第一次社会経済開発計画、国家復興開発計画、公共投資計画を策定し、2000年までに運輸関連では約232百万ドルの投資を計画している。そのうち約200百万ドルが首都プノンペン市と地方を結ぶ主要道路の整備計画に充てられ、特に国道1号線から7号線の主要幹線道路整備が進められてきた。本協力対象事業は、同整備計画に位置付けられるものである。現在のカンボディアの道路現況を下表に示す。

#### 現在のカンボディアの道路現況

道路区分	道路番号	路線数	延長(km)	構成比(%)	備考
主要国道	1～7	7	1,988	5.9	主要都市
一般国道	11～78a	37	2,177	6.5	
国道計		44	4,165	12.4	
州道	101～339	124	3,555	10.5	国道～地方都市
地方道			26,000	77.1	未舗装
延長合計			33,720	100.0	

道路舗装率:世銀95年の資料では7.5%

道路率 : 上記道路延長と国土面積から算出 道路延長/国土面積=0.186km/平方 km

### 3. 事業の目的等

ヴェトナム・カンボディア間の主要ルートとして将来期待される国道7号線コンボンチャム区間については、氾濫源に位置し、道路の幅員が狭く路面も悪いため走行状態もよくない。本事業では、2002年にコンボンチャム市に隣接してメコン橋(我が国の無償資金協力で建設中)が開通された後の交通量の増大に対応するため、同区間における道路の改築及び耐荷力の低下した橋梁の架け替えを行うことにより、安全で円滑な交通を確保することを目的とする。

### 4. 事業の内容等

- (1) 対象地域  
コンボンチャム州
- (2) アウトプット

国道 7 号線コンポンチャム区間が整備される。

(3) インプット

- 1) コンポンチャムのメコン河左岸部のメコン橋取り付け部から国道 11 号線の交差点部までの約 11.5km の道路改修(一部、メコン河の氾濫時の対策として高盛土・護岸・植生工事等を含む)
- 2) 道路幅員の拡幅(既存道路:5 ~ 6m、本事業:11 ~ 12m)
- 3) モアットクモン橋の架け替え(橋長約 175m)
- 4) ミレアムテック橋の架け替え(橋長約 14.4m)

(4) 総事業費

概算事業費 20.75 億円(日本側負担 20.53 億円、カンボディア国側負担 0.22 億円)

(5) スケジュール

詳細設計を含め約 28 ヶ月間を予定

(6) 実施体制

公共事業運輸省 施設建設センター  
(施設完成後の運営は、公共事業運輸省 道路局)

## 5.成果の目標

(1) プロジェクトにて裨益を受ける対象の範囲および規模

メコン河左岸の国道 7 号線に関連するコンポンチャム州・プリアベン州等を含む 6 州が裨益を受ける地区となり裨益人口は約 1,862 千人である。

(2) 事業の目的(プロジェクト目標)を示す成果指標

コンポンチャム区間の通行所要時間及び平均走行速度の短縮

	2000 年(実施前)	2003 年(実施後)
通行所要時間	約 40 分	約 15 分
平均走行速度	約 18km/時	約 46km/時

(3) その他の成果指標

交通量の増大

	2000 年(実施前)	2012 年(実施後)
交通量	約 700 台/日	約 3,200 台/日

(「メコン河本流架橋計画調査」(1995.4. ~ 1996.5)の交通量予測曲線と現在の交通量調査結果を基に算出)

## 6. 外部要因リスク:

(1) 道路維持管理技術者の確保

本改築対象区間は例年発生するメコン河の氾濫が特に激しく生じる路線であり、健全な施設を長期的に保全するためにも、公共事業運輸省道路局が道路維持管理技術者を確保する。

## 7. 今後の評価計画

### (1) 事後評価に用いる成果指数

- 1) 通行所要時間
- 2) 平均走行速度
- 3) 交通量

### (2) 評価のタイミング